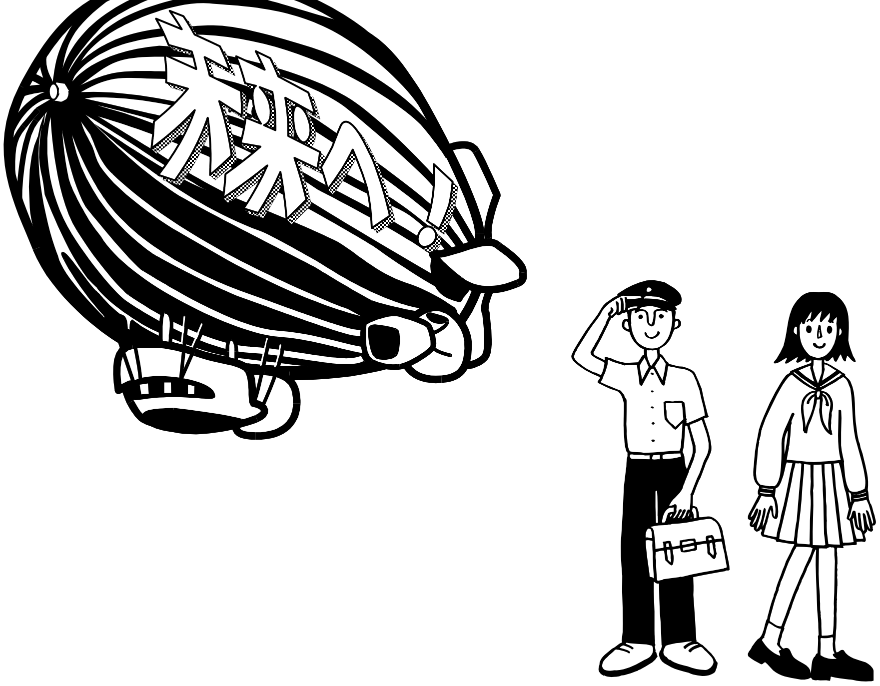
令和２年度　世田谷区立上祖師谷中学校

第1回　進路説明会(資料)



令和２年７月２３日（木）、２４日（金）

３年　　組　　　番
氏名

世田谷区立上祖師谷中学校

所在地　〒157-0065　世田谷区上祖師谷７－１０－１
電　話　０３－３３０８－９６８３
ＦＡＸ　０３－３３０８－９７７８

はじめに

生徒たちは中学校生活も３年目を迎え、いよいよ将来の方向を決定する進路選択の大切な年となりました。生徒たちにとって、自分自身と向き合い、時には現実の厳しさに直面する、これまでにない１年になります。その中で進路選択をどのようにしていくかは、よく考えなければいけないことです。

本校では、進路指導として、３年間の中で計画的、継続的に進路情報の提供をしたり、望ましい職業観や勤労観を身につけることができるように進めてまいりました。その集大成として、生徒自らが悔いのない進路選択ができることを望んでおります。自己理解を深め、自分の将来を考え、自らの責任で自分の進路を決定することが必要です。そのためには、保護者の方がお子様とよくお話し合いいただくことももちろん大切なことです。

本校では、生徒一人一人が適切な進路選択を主体的にできるように、適切な情報を提供し、ご相談できるよう諸準備を進めて参ります。ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

目　次

Ⅰ．進路決定のために …………1

1 進路についての学校方針 …………1

2 生徒自身の心構えとご家庭の援助について …………1

3 進路決定までのみちすじ …………2

Ⅱ．卒業後の進路の種類 …………3

1 就職について …………3

2 上級学校への進学について …………4

（１）高等学校 …………4

（２）高等専門学校 …………8

（３）高等専修学校 …………8

（４）各種学校 …………9

（５）通信制高校補習校（サポート校） …………9

Ⅲ．志望校をどう選択するか …………9

1 学校を選ぶ手がかり …………１０

2 上級学校を詳しく知るために …………１０

Ⅳ．高等学校の入試制度について …………１１

1 都立高校 …………１１

2 私立高校 …………１４

3 昨年度の入試の概況 …………１６

資料　1.上祖師谷中学校　推薦についての考え方

2.第３学年進路計画

3.令和２年３月卒業生進路先一覧

Ⅰ　進路決定のために

1 進路についての学校方針

（１）進路相談は学年・学校の教員全員で

本人や保護者の方の相談に直接あたるのは担任ですが、生徒一人一人について学年及び学校全員で検討し、学年・学校としての考えをまとめ、相談を進めていきます。

（２）進路先の最終決定は、各家庭で

三者面談等で、生徒の進路の可能性について話をする場合、次の方針で臨みます。

①　生徒の普段の学校生活への取り組みについて話をすることによって、生徒と保護者の方に生徒の適性や能力に関して理解を深めてもらい、よりよい進路選択ができるようにします。

②　学校ではこれまでの資料や情報をもとにできる限りアドバイスを行います。進学希望校への合否の可能性について質問があった場合、学校では意見を伝えたり資料を提供したりします。

①，②を踏まえた上で、最終的な進路先は面談内容を参考に、生徒本人と保護者の方が十分に相談し、決定してください。

（３）情報収集と情報提供の努力をします

入試制度や募集状況などは、毎年少しずつ変更されています。学校でも、できるだけ情報を早く正確につかむようにします。また、生徒や保護者の方も、進路に関して積極的に情報収集をしてくださるようお願いいたします。

入試に関する情報は、内容によって時期を考え「学年だより」や進路説明会等で、各ご家庭にお知らせする予定です。配布物には必ず目を通してください。また、上級学校の見学会、体験入学等の案内を廊下、教室他に掲示しますので、積極的に参加してください。尚、質問・疑問は遠慮なく担任にお尋ねください。

（４）その他

進路希望先の学校等に提出する書類には、各生徒の教科の評価・評定と、他に欠席、遅刻、学校生活などについて記入します。特に、私立高校への推薦受験を希望する場合、私立高校側から中学校の生活について詳しく問われることがあります。普段の学校生活をしっかりしていくことを、常に心がけてください。

2 生徒自身の心構えとご家庭の援助について

生徒たちは、学校を卒業してから、就職し、健康で健全な家庭を作り、平和で民主的な国家及び社会の形成者として、世の中に貢献することになります。そのために１，２年生の頃から将来の夢を考え、自分の適性を探り、実際に職場体験もしてきました。また、日常の学校生活の中でも、自分の特徴を知り、礼儀やマナーも身に付けてきました。

そして今、３年間の中学校生活をまとめ、将来を見通しながら進路を決定する時が近づきました。進路は、何よりも自分の問題です。自分自身をしっかりと見つめ、自分にふさわしい進路を決定していきましょう。そのために、今やるべきことは何でしょうか。

（1）人任せでない、自分のこととして考えること

誰のためでもなく、進路は自分の将来のことです。面倒だといって逃げたりせず、自分自身を見つめ直し、努力し続け、するべきことを確実に実行していきましょう。保護者の方は、自分の人生経験をもとに、社会人の先輩としても、お子様に対して正しい進路が選択できるよう、日頃から良き相談相手をお願いします。

（2）生活の基本を大切にすること

近い将来、自立して、社会で生きていく一人の人間として、身に付けておく基本をおろそかにしないようにしましょう。「時間を守る」「提出物を出す」「ルールを守る」「礼儀・マナー」「挨拶・言葉づかい」「身だしなみ」「『ＴＰＯ』や『報告・連絡・相談』を大切にする」等、普段の生活が問われます。また、生活のリズムを崩さず、体調管理にも気を付けなければいけません。家庭内でも、受験生であればすべてが許されるわけではありません。普段通り、家族の一員としてすべきことはきちんとしていきましょう。保護者の方は、お子様が心身共に健康的な生活が送れるよう、朝食を採ることや睡眠時間の確保なども含め、十分な配慮をよろしくお願いします。

（3）学力をつけること

試験を受けるのですから学力が必要です。学力は入試直前まで伸びる可能性があります。
しかし、今のうちから計画的に進めることが重要です。そのためには、
「中学３年間の学習内容を整理してまとめること」
「１，２年の学習内容を復習し、正確に理解しているかをチェックすること」
「毎日の授業を大切にし、提出物もきちんと出すこと」
等が大切です。学問に王道なし。根気よく積み重ねていく他に学力の向上はありません。

（4）進路に関する情報を正しく知ること

マスコミやネットのうわさ等に惑わされず、正しい情報をきちんと知ることが大切です。学校からも進路情報を伝えますので、よく聞き取って理解してください。保護者の方も、ご質問・ご相談等ありましたら、遠慮なく学校にご連絡ください。

3 進路決定までのみちすじ

（1）将来の進路を考える

自分はどのような生き方をしたいのか、また、就職や学習に対する自分の意志をしっかり確かめ、将来の職業や進学方向に対して再確認をして臨みましょう。

（2）自分自身を理解し、自分の能力・適性を考えてみる

人間形成に環境の力はとても大きいものです。進学する場合、学習内容、教育方針、雰囲気等、様々なことがらを検討し、本人にあった学校を選ぶべきです。

（3）親・兄弟・先生・先輩・本等から正しい情報を得て考える

いろいろな人から話を聞いたり、本やインターネットで調べたりして、十分に情報を得ることが必要です。もちろん、実際に行ってみて、自分の目で確かめ肌で感じることも忘れてはいけません。説明会や、体験入学、公開講座などにも積極的に参加してみましょう。

（４）親子で十分に時間をかけて話し合う

合格して決定した進路先には、毎日通うことになります。そのためには、通勤・通学　時間や自分の体力・健康面、経済面等といった視点も含め、家庭で十分に時間をかけて話し合ってください。

（５）先生と相談する

担任は意見を求められれば、率直に述べます。特に、学力面については多面的に把握していますので、ご相談ください。

（６）最後は、自分で決断する

友人が行くから､誰かが勧めるから､といった理由で進路先を決めることは避けたいものです。進路は、本人の人生の問題で、進学する場合、学費を出すのは保護者です。したがって、本人と保護者がよく話し合いを重ねた上で責任を持って、十分に検討して進路を決定しましょう。

（７）今、すべきこと

繰り返しになりますが、一番大切なこと(基本)は、規則正しく落ち着いた生活を送ることと、学習習慣を確立させることです。学習については、授業を大切にすると共に、基礎的な学力をきちんと身に付け、その上で応用力を付ける学習をすることです。

Ⅱ　卒業後の進路の種類

中学校卒業後は、主に「就職」、「上級学校への進学」の２つが考えられます。

1 就職について

中学校を卒業して就職するためには、主に次のようなケースが考えられます。

（１）家業や親戚、知り合いの紹介での就職（縁故就職）

（２）公共職業安定所（職安「ハローワーク」）を通しての就職

「ハローワーク」を通すと、最低賃金や労務災害、通勤時間等いろいろな点で保証がされます。しかし、中学校卒業で就職可能な職業は限られており、募集人数もかなり少ないのが現状です。

（３）都立職業能力開発センターに通って１～２年訓練を受けてからの就職

短期間に職業に必要な技能を身につけることを目的とした「学校」です。都内に、約８校(大田区や府中市)、訓練種目は約１００種あり、中学校を卒業していれば、性別・年齢に関わらずに応募でき、授業料は有償と無償の場合があります。訓練終了後に就職の斡旋もしてくれます。

（４）企業内訓練校に入る

企業が運営する訓練校もあります。手当も支給され、卒業後そのまま就職します。３年制で高卒資格も取れます。

例）日野工業高等学園（日野自動車工業株式会社）

2 上級学校への進学について

上級学校への進学は、大きく分けると次の３つに分類できます。

（１）高等学校（都立・私立・国立）　（２）高等専門学校　（３）高等専修学校

（１）高等学校

①　高等学校の種類

【授業を受ける時間帯による分け方】

全日制課程	毎朝登校して、日中授業を受ける。修業年限は３年間。
定時制課程	夜間、あるいは、一定の時間帯にまとめて授業を受ける。修業年限は３年間、または４年間。（夜間の場合は、午後５時～９時頃まで）
通信制課程	通信によって配布される教材や放送を中心に自宅で学習し、定められたレポートを提出する。日曜日等に面接授業（スクーリング）に出席する場合もある。修業年限は３年以上。

※いずれの場合も、高校卒業の資格を取得することができます。

【教育内容による分け方】

普通科	普通課程の教育を目的とする学校。英語・理数などのコース制も普通科に入る。
専門学科	職業課程の教育を中心とし、工業・農業・商業・家庭・水産科等があり、学科の中はさらに細かく分かれる。
総合学科	国語や理科等の普通科目から、工業・商業・情報・美術などの専門科目まで、幅広い選択教科から、自分の特技や進路希望にあった科目を主体的に選択できる。
その他学科	音楽・美術・保健体育など

※普通科は、一般教養を身に付ける（中学校での勉強の内容をさらに深く学習する）ことを目的とし、将来、大学に進学したい人、様々な進路選択のために広く教養を身に付けたい人に向いています。

※専門学科は、社会人になるために必要な技術を習得することを目的としています。

【学習する集団による分け方】

学年制	第１学年、第２学年…、と進級する。中学校と同じく、学校で決められた時間割に沿って授業を受ける。不合格の科目があると留年することになる。
単位制	学年がない。(学年制のよさを取り入れ、クラスを作っている高校も多い。)必修科目以外は、選択科目の中から自主的に選べ、進路に合わせた時間割を組むことができる。留年はないが、単位が足りないと進学に影響するので、自己管理が大切である。受講する授業によって、メンバーが異なる。

【設置者の違いによる分け方】

国立	国立大学によって設立されている附属高校。国立大学の研究・実験に協力するための「教育実験校」で、難易度が極めて高い。
公立	都道府県や市が設置し、経費を負担している学校。都立学校は、東京都が設置している。
私立	それぞれの理念を持つ学校法人によって設立された高校。独自の方針に基づいた教育を行う。

② 高等学校の授業料（昨年度）

都立高校全日制の場合、入学金は5,650円、授業料は年間118,800円です。国立は、入学金は56,400円、年間授業料は、都立高校とほぼ同じです。私立高校の費用は学校によってまちまちですが、国公立学校よりも費用がかかるので、調べる必要があります。説明会に参加すれば資料が貰えます。「高校授業料無償化制度（※所得制限があります）」を利用すれば、公立学校の学費分が公的に援助されます。詳しくは高校進学後にお手続きください。

③ 都立高等学校について

※令和３年度入試の募集案内は、例年、都教委より１０月頃発表があります。

【都立高等学校の特色】

ア） 都民を対象に教育を行う。都民なら、どこの都立高校を受けることもできます。

イ） 男女共学が基本であり、宗教・思想にかたよらない教育が行われています。

ウ） 普通科と専門学科、総合学科等があります。近年様々なタイプの高校や学科・コースが設置され、さまざまなニーズに応えるようになっています。

エ）自由な雰囲気で、生徒の自主性に任されている部分も多く、制服のない学校もあります。

オ）学費は私立高校に比べると大幅に安いです。

【主な都立高等学校】

ア） 普通科

比較的通学しやすい近隣の普通科高校を紹介します。（＊は単位制）

校名	所在地
＊新宿	新宿区内藤町
戸山	新宿区戸山
駒場	目黒区大橋
目黒	目黒区祐天寺
桜町	世田谷区用賀

校名	所在地
千歳丘	世田谷区船橋
深沢	世田谷区深沢
松原	世田谷区桜上水
＊芦花	世田谷区粕谷
青山	渋谷区神宮前

校名	所在地
広尾	渋谷区東
神代	調布市若葉町
調布北	調布市深大寺北町
調布南	調布市多摩川
狛江	狛江市元和泉

イ） 専門学科

商業科、工業科、農業科等、自分の興味や関心のある分野を重点に学習できます。専門の学習をする時間が多く、将来の進路希望が明確な場合にそれを達成するのに役立つ学習もできます。比較的通学しやすい高校は次の通りです。

校名	所在地	科名	設置科
府中工業	府中市若松町	工業	機械、工業技術、情報技術、電気
総合工科	世田谷区成城	工業	機械・自動車、電気・情報デザイン、建築・都市工学
第一商業	渋谷区鉢山町	商業	商業
農業	府中市寿町	農業／家庭	都市園芸、食品科学、緑地計画／服飾、食物
駒場	目黒区大橋	体育	保健体育
野津田	町田市野津田町	福祉／体育	福祉／体育
国際	目黒区駒場	国際	国際
総合芸術	新宿区富久町	芸術	美術、舞台表現、音楽(単位制)

ウ） 総合学科

普通科、専門学科の枠にとらわれず、普通科目、専門科目、職業科目等幅広い選択科目から、履修科目を自分で選択して学習します。資格取得にも対応できます。原則としてすべて単位制です。比較的通学しやすい高校は次の通りです。

校名	所在地	科名	系列(科目を選択するとき目安となる枠組み)
晴海総合	中央区晴海	総合	情報ｼｽﾃﾑ、国際ﾋﾞｼﾞﾈｽ、語学、芸術文化、自然科学、社会経済
杉並総合	杉並区下高井戸	総合	人間社会、科学環境、ﾒﾃﾞｨｱ文化、ﾋﾞｼﾞﾈｽ、国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ
世田谷総合	世田谷区岡本	総合	社会教養、環境ｻｲｴﾝｽ、国際文化、情報、ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ ものづくり
若葉総合	稲城市坂浜	総合	人間探求、芸術表現、伝統継承、情報交流

【都立高等学校のいろいろなタイプ】

その他、都民の様々なニーズに応えるために、いろいろなタイプの高校も作られています。

ア） 進学指導重点校

難関国立大学や国公立大学医学部医学科への進学実績の向上を目指す高校です。将来の日本のリーダーとなり得る高い資質を持った生徒に対し、組織的・計画的に進学対策を推進し、都立高校全体をけん引する役割を担っています。進学指導の組織的取り組みができるように、東京都教育委員会が様々な支援を行っています。進学指導だけでなく、知・徳・体のバランスのとれた人格形成も目指しています。

（日比谷・戸山・青山・西・八王子東・立川・国立の７校）

イ） 進学指導特別推進校

国公立大学や難関私立大学等への進学を実現するために必要な学習に取り組む学校です。進学指導体制を充実し、安定的な進学実績の確保に取り組んでいます。進学指導重点校同様、東京都教育委員会が様々な支援を行っています。

（小山台・駒場・新宿・町田・国分寺・国際の６校）

ウ） 進学指導推進校

生徒の進学希望を実現するため、優れた教育活動を実践するとともに、生徒の着実な学力の伸長を図り、進学実績の向上に取り組んでいます。進学指導重点校同様、東京都教育委員会が様々な支援を行っています。（三田・豊多摩・竹早・北園・隅田川・城東・小松川・武蔵野北・小金井北・江北・江戸川・調布北・日野台の１３校）

エ） チャレンジスクール

中学校のときに欠席日数が多かったり、高校中退を経験した生徒など、これまでの教育では自分の能力を十分に発揮できなかった生徒が、自分の夢や目標に向かってもう一度チャレンジできる学校です。学力検査や調査書によらず、生徒の学習意欲を重視した入学者選抜を行っています。無学年制で３部制の単位制総合学科です。（世田谷泉、六本木、大江戸、稔ヶ丘、桐ケ丘高校の５校、及び、八王子拓真高校チャレンジ枠）

オ）　エンカレッジスクール

小・中学校で十分に能力を発揮できなかった生徒のやる気を育て、頑張りを励まし、応援しながら、勉強や学校行事、部活動などを通して学校生活を充実させる高校です。学力検査を行わず、面接や作文等で入学者選抜を行います。

（蒲田、足立東、東村山、秋留台、練馬工業高校の５校）

カ）　その他

国際バカロレアコース、理数アカデミー校、理数研究校、アクティブ・ラーニング推進校、デュアルシステム科設置校、中高一貫教育校等、特色のある学校が多くあります。各家庭用の都立高校案内を配布しますので、詳しくはそちらを参照してください。

④　私立高校について

都内に私立高校は約２３０校あり、そのうち７５％の高校が中学を併設しています。そのため高校からの募集を停止する高校もあるので、高校から募集をしている学校は約１８０校です。高校進学者数の約４０％の生徒が私立高へ進学しています。

都内の私立高校も、時代のニーズに合わせて大きく変化しています。大学や短大に直結させたり特進コースを設ける等、学力向上をはかる傾向が強くなってきています。また、男子校、女子校から共学校になる学校も多く、雰囲気も変わってきています。私立高校には独自の教育方針や伝統・校風があります。ですから、私立高校の選択にはより慎重な態度で、正確な情報を得ることが必要です。

【私立高等学校の特色】

ア）　都内はもちろん、他県も受験できます。

イ）　男女別学（男子校・女子校）があります(最近は共学校への変更も増えてきています)。

ウ）　時代にあった学科やコース（国際関係・情報関係など）を設置しています。

エ）　大学（短期大学）付属高校も多くあります。

オ）　難関大学進学を目指すコースや成績優秀者への特待生制度(授業料免除等)がある高校が多いです。

カ）　実務的な専門教育が受けられる高校があります。

キ）　スポーツや文化活動等に力を入れている高校があります。

ク）　建学の精神に則った教育を重視しています。宗教に基づいた教育もあります。

ケ）　設備（温水プールなど）が充実している高校が多いです。

⑤　国立高校について

【国立高等学校の特色】

ア）　例年競争率が高く、試験の内容も難しいです。

イ）　入試教科はほとんど５教科（国社数理英）で試験日は都立高校より早く、２月中旬に行われるところがほとんどです。

ウ）　私立のような直系大学への優先入学はありません。一部の大学で、独自の推薦枠を設けている場合もあります。

エ）　原則としてどの高校も受けられますが、通学区域の指定や通学時間の制限がある場合もあります。

校　　名	最 寄 り 駅
東京芸術大学音楽部附属音楽　(共学)	ＪＲ線　お茶の水･水道橋
東京工業大学工学部附属工業　(共学)	ＪＲ線　田町
お茶の水女子大学附属　　　　(女子)	メトロ丸の内線　茗荷谷
筑波大学附属　　　　　　　　(共学)	メトロ丸の内線　茗荷谷
筑波大学附属駒場　　　　　　(男子)	京王井の頭線　駒場東大前
東京学芸大学教育学部附属　　(共学)	東急東横線　学芸大学

（２）高等専門学校

高等専門学校とは中学校卒業生を対象とした５年間の一貫教育を行う高等教育機関です。実践的な技術の習得を重視し、主に工学系の技術者を育成する学校です。卒業後には「準学士」の称号が与えられます。少人数教育や広いキャンパスなど、教育条件・自然環境に恵まれています。卒業後も、さらに研究を進めたい人は、大学の３年次に編入できる制度があります。都立の高等専門学校は、都立高校よりも先に検査と発表があります。出願は両方にできますが、高等専門学校に合格したら、都立高校は受検できません。

東京には、下記の高等専門学校があります。

① ［国立］ 東京工業高等専門学校（八王子市）
　　＜設置学科＞　機械工学・電気工学・物質工学・電子工学・情報工学

② ［都立］ 産業技術高等専門学校（品川キャンパス・荒川キャンパス）
　　＜設置学科＞　生産システム工学・電子情報工学・機械システム工学・
　　電気電子工学・情報通信工学・ロボット工学・航空宇宙工学・医療福祉工学

③ ［私立］ サレジオ工業高等専門学校　(町田市)
　　＜設置学科＞　デザイン学科・機械電子工学・電気工学・情報工学

（３）高等専修学校（専修学校高等課程）

専修学校とは、社会に出て仕事をするために必要な専門の知識や技能等を身に付けることを目的とした学校(教育施設)です。私立が多く、教育内容・教育方針、施設、設備、経費などはさまざまで、就学期間も１年・２年・３年とあります。授業の６～７割が職業教育です。卒業後は、こうした専門知識や技術を活かせる職業に就くのが一般的です。しかし、３年制の卒業生の多くは、大学入学資格を付与されるので、最近では大学等への進学者も増えてきました。

専修学校は修業年限が１年以上、授業時間が年間８００時間以上、生徒が常時
４０人以上等の条件を満たすもので、それ以外は「各種学校」となります。「専門学校」というのは専修学校の一つの形で、高校卒業者・高等課程卒業者以上を対象とする学校です。中学校卒業者以上を対象とするのは、専修学校〔高等課程〕です。この課程が置かれている学校は『高等専修学校』と称することができます。修学期間３年間の高等専修学校の中には、通信制高等学校と「技能連携」し、卒業と同時にその高等学校の卒業資格も得られるところも多いです。

【都内の高等専修学校の例】

・東京多摩調理製菓専門学校(多摩市)　・武蔵野東技能高等専修学校(武蔵野市)
・大竹高等専修学校(八王子市)　・町田調理師専門学校高等課程(町田市)

（４）各種学校

各種学校は、前のページの学校以外の各種の学校で、和洋裁、簿記、自動車整備、調理、美容、英会話等の教育施設を含んでいます。専修学校よりは比較的緩やかな基準があり、都道府県知事の認可を受けて設置されます。就学期間は原則１年以上ですが、内容によっては１年未満のものもあります。

（５）通信制高校補習校(サポート校)

通信制高校補習校(サポート校)とは、通信制高校に在籍する生徒が通学する形で、通信制高校のレポート作成等の援助をし、３年間で高校卒業資格を取るサポートを行う民間教育機関(各種学校)です。通信制高校は自宅学習してレポート作成しなければならず、途中でくじけてしまう場合もあります。そこで、勉強する習慣を付け、卒業まできめ細かく対応するために作られた学習教室のようなものです。一人ひとりの状況に合わせ、「週１日登校」や「特定の教科の時だけ登校」等自由度の高いカリキュラムが組まれています。最近では、生徒が意欲的に学習できるようにするため、高校のような形で時間割を組み、ホームルームや清掃活動をしたり、体育祭、文化祭などの行事を行っているところも多いです。

近年、サポート校の数も増えてきています。中学校時欠席日数が多かった生徒の受け入れなども進めており、少人数でていねいな指導をモットーにしていますが、施設的にはあまり十分でない場合もあり、また、学校と同時に、提携している通信制高校へも学費を支払うことになるため、費用は高額になります。

参考　奨学金制度について

優れた能力を持ちながら家庭の経済的な事情で高校進学が困難な人のために学費の援助をする奨学金制度があります。詳しくは、担任まで、早めにご連絡ください。

Ⅲ　志望校をどう選択するか

合格して入学したら終わり、ではなく、始まりなのです。まず何のために上級学校で学ぶのかをしっかり自覚した上で、学校を選ぶことが大切です。学習に励み、心身を鍛え、自分を高めていく意志を持って進学しましょう。「自分の将来の目標や方針にあう学校」「自分の可能性を精一杯伸ばせる学校」を選ぶ手掛かりについて説明します。

1 学校を選ぶ手がかり

（1）教育方針が本人の性格や希望にあっているか

校風、特に私立学校の場合は「建学の精神」、「宗教教育」、伝統、雰囲気等

（2）学校の形態（男子校・女子校・共学校）はどうか

私立校には、男女校(男子、女子とも在籍しているが、クラスや校舎は男女別)という形態もあります。

（3）自分にあった科やコースがあるか

学びたい教科、大学受験の重点指導、選択教科等のカリキュラムをよく調べておきましょう。

（4）部活動や学校行事は活発か

充実した学校生活にするには、部活動や学校行事は重要なポイントです。

（5）校則や生活指導は、本人の性格にあっているか

中学校以上に厳しい校則で指導する学校もあれば、生徒の自主性にまかせている学校もあります。

（6）環境や設備はどうか

学校によって周辺の環境や校内の設備に違いがあります。改築や移転の予定なども確かめましょう。

（7）通学時間に無理はないか

合格すれば当然３年間通います。通学時間が適切か、学校生活や健康に負担にならないか検討しましょう。

（8）費用に無理はないか

高校では、義務教育とは違い、授業料・教材費・その他の経費がかかります。将来を見通した上で、総合的に判断しましょう。前述した奨学金制度もありますので、ご相談ください。

（9）学力・授業の難しさはどうか

入学試験の内容はもちろん、入学後、その学校の授業を理解し、卒業まできちんと学んでいけるかどうかも検討しましょう。

2 上級学校を詳しく知るために

学校を選ぶための第一の方法は何と言っても、実際に学校を訪問し、見て、体験してみることです。１学期から夏休み、２学期にかけて、多くの学校で見学会や説明会があります。教室や廊下の掲示物もよく見てみてください。また、具体的に志望校が決まっている場合は、ホームページや電話で問い合わせもしてみましょう。次のような機会が多数あります。

（1）見学会 授業見学 公開授業 …実際に高校生が授業を受けているようすを見学できます。

（2）体験入学 部活動体験 …中学生を対象に授業をしたり、部活動に参加できる機会です。

（3）学校説明会 …保護者、生徒対象に、学校の概要や入試の情報を説明する会です。

（4）文化祭 運動会 …学校や生徒の雰囲気を知るとてもいい機会です。イメージと違うことも多いです。

（5）インターネットの活用 …ほとんどの高校がホームページを持っています。早くて正確な情報が得られます。

希望の進路実現のためには、目標を定めて、それに向かって努力することが大切です。それと同時に、第２第３の選択も考えておく必要があります。高校が最終目的地ではありません。将来の進路実現のための道筋は１つに限定されるものではありませんし、本人の可能性もたくさんあるはずです。

経済的なことは重要ですが、前述したように、将来を見通した上で考えるとどのような選択がよりよいかは単純に判断できません。私立に行っても奨学金や特待生制度を使うこともできます。さまざまな可能性を考え、進路選択の幅を広く持ってほしいと思います。

Ⅳ　高等学校の入試制度について

令和３年度入試に関する詳しい内容は、第２回進路説明会で説明いたします。本日は、現在わかっている内容及び今年度の内容に基づいて説明いたします。

1 都立高校

都立高校は平成15年ごろから、さまざまな種類や学科が設置され、入試制度においても絶対評価の導入、学区の撤廃、自己ＰＲカードの導入、特色ある選抜方法など、大きく変化しており、以前のように全都一律ではなくなりました。そこで、東京都教育委員会では、６月下旬と１０月下旬の２回、全都の中学３年生に、都立高校の概要、入試制度の説明、募集要項に関するパンフレットが配られることになっています。

※都立入試では入試を「学力検査」「実技検査」等と呼ぶため、「受験」ではなく、「受検」と表記します。

（１）応募資格

①　全日制

東京都に住所を有し、入学後も引き続き都内から通学する者で、保護者と同居している者。都内どこの都立高校でも受検できます。

※他県転居予定のある方は、早めに担任にご相談ください。

②　定時制

都内に住居または勤務先があれば特に制限はありません。

（２）入試について

推薦入試、第一次募集(分割前期募集)、第二次募集(分割後期募集)の３回の受検機会があります。いずれも自分が入学したい学校を１校だけ選び、その高校で検査を受ける単独選抜の方法をとっています。一校合格したら、他は受検できません。３回の受検機会のうち、推薦入試と二次募集(分割後期募集)は多くの受験生が集まるので、実際には一次募集(分割前期)に焦点を合わせて計画を立てることが大切です。

令和３年度の入試日程は、以下の通りです。

（詳しい入試要項は、概ね１０月頃までに発表があります。）

推薦に基づく選抜	令和３年１月２６日(火)及び１月２７日(水)
第一次募集・分割前期募集	令和３年２月２１日(日)
第二次募集・分割後期募集	令和３年３月１０日(水)

① 推薦による選抜

ア）一般推薦

学校全体の募集人員のうち、２０～３０％を推薦で選抜します。昨年度の場合、普通科で２０％、コース制・単位制、専門学科で２０～３０％の学校が多数でした。

推薦の条件
・令和３年３月に都内の中学校を卒業する見込みのある生徒。
・在学している中学校の校長先生が、推薦にふさわしいと認めた場合。

・中学校長の推薦を受けて、集団討論または個人面接及び作文または小論文を実施します。実技試験を実施する高校もあります。

・合否の判定は、各高校があらかじめ定めた選考方法に基づき、調査書、個人面接(及び集団討論)、作文または小論文等を総合した成績及び高等学校長が必要とする書類(自己ＰＲカードを含む)により行います。

・調査書は、評定の数字(５段階×９教科＝４５点満点)を用いる高校がほとんどですが、一部に観点別学習状況の評価(全 37 観点を ABC３段階で評価)を点数化したものを用いる高校もあります(エンカレッジスクール等)。

【総合成績の点数化の例】

千歳丘高校

…調査書点(評定 45 点満点)を 600 点満点に換算し、集団討論･個人面接点を 300 点満点、作文を 300 点満点で評価し、計 1200 点満点で判定。

イ）文化・スポーツ等特別推薦

指定したスポーツ、教科、文化活動等に卓越した能力を持つ生徒を対象にした推薦入試です。

【内容の例】（令和２年度入試)

世田谷総合高校（ダンス）

…募集男女２名、基準「校内または校外においてダンスに関わる大会やコンクール、発表会等に出場した者」他

広尾高校（硬式野球)

…募集男３名、基準「運動能力に優れ、中学校の部活動またはクラブチーム等で継続して活動していた者」他

※都立高校の推薦入試は、多くの私立高校や大学への推薦入試と違い、「選抜制度」の一つです。よって、合格率は低いです。昨年度の場合、推薦入試の実質倍率は 2.61 倍でした。また、文化スポーツ等特別推薦は、応募者が一定のレベルに達していなければ、定員内でも不合格になります。

※都立推薦入試に合格した場合は、必ず入学しなければいけません。

② 一般入試(学力検査による選抜)：一次募集(分割前期募集)、二次募集(分割後期募集)

【入試科目】

全日制課程の場合、原則、一次募集(分割前期募集)は５教科(国数英社理)を実施し、二次募集(分割後期募集)は３教科(国数英)を実施します。

国語で作文、英語でリスニングテスト、数学で作図が実施されます。また、社会等では、資料やグラフからわかることを考えて書く問題が出題されたりします。また、一部問題にマークシート問題が出題されます。高校によっては、面接や作文(小論文)、実技検査も行います。入試問題は、多くの高校では、翌日新聞で発表される共通問題ですが、一部の上位校では、学力検査問題を自校で作成する高校があります。

・国語、数学、英語を自校で作成する高校 …日比谷、西、青山、立川、戸山、八王子東、国立、新宿、墨田川、国分寺 ・英語のみ自校で作成する高校 …国際　(令和２年度)

※昨年度まで国語、数学、英語を併設型中高一貫教育校５校で作成していた両国、武蔵、大泉、白鴎、富士の内、武蔵・富士は高校段階での募集を停止、両国・大泉・白鴎は都立高校共通問題を使用しての学力検査を行うこととなりました。

【合否の判定】

合否の判定は、学力検査の成績(入試得点)、調査書(内申点)の合計点(総合得点)に、面接や小論文または作文、実技検査等を加えた総合成績によって行われます。総合得点は入試得点と内申点の単純合計ではなく、それぞれに比重をかけます。

ア．全日制課程では、学力検査と調査書の比重のかけ方は、次の通りです。

一次募集(分割前期募集) … 学力検査：調査書は、７：３ 二次募集(分割後期募集) … 学力検査：調査書は、６：４

イ．調査書点は、「内申点」をもとに計算されます。

(内申点)=(学力検査実施教科の計)+(学力検査を実施しない教科の計の換算) ※受験科目の５教科の評定はそのままで、実技４教科は２倍する。 →５点満点×５教科＋５点満点×２倍×４教科＝６５点満点 で、「内申点」が出されます。「換算内申」とも呼ばれます。

ウ．面接(上限 300 点)や作文(上限 200 点)、実技検査(上限 1000 点)についても各高校で満点を定め総合得点に加算して、総合成績となります。

エ．原則として普通科は男女別、コース制・専門課程は男女合わせて募集します。

オ．専門学科の高校のようにいくつかの学科のある高校は、総合成績の順により決定し、その後、それぞれの科ごとにその科を第１志望としたもののうちから総合成績の順により決定します。第１志望で募集人員に達しない場合は、他の科を第１志望とした合格者から志望の順位に基づき決定します。

【例】全日制普通高校一次募集（実技・面接等は行わない場合）は次の通りです。

学力検査の得点	7 : 3	調査書点
５００点（100 点×5 教科）		内申点(65 点満点）
↓得点を 1.4 倍する		↓換算内申を 300/65 倍する。
７００点（換算後）	＋	３００点（換算後）

１０００点（総合得点）

【例】上中太郎くんの得点と評定が次のような場合の、全日制一次募集の入試の総合得点

＜入試得点＞

国語	数学	英語	社会	理科	合計
７０	６０	７０	６０	７０	３３０

＜評定＞

国語	社会	数学	理科	英語	音楽	美術	保体	技家
4	4	3	4	3	4	4	3	3

・学力検査の得点(５教科合計５００点満点を７００点満点に換算)

３３０点　×１.４　＝ ４６２点

・調査書点(５教科は１倍、実技教科は２倍)

国　社　数　理　英　　　音　美 保体 技家

（４＋４＋３＋４＋３）＋（４＋４＋３　＋３）　×２　＝１８＋２８＝４６

４６×300/65　＝　２１２.３点 （小数点以下は切り捨て）

・よって、全日制一次募集校を受検した場合の太郎君の総合得点は、

４６２＋２１２＝ ６７４点 （１０００点満点中）

となります。

③　その他

ア．志願変更…全日制の都立高校の志願者は、願書提出後、応募状況を見て、１回に限り他の学校の科またはコースへ志願変更することができます。

イ．第二次募集…定員に満たない場合に行います。受検教科は３教科です。しかし、最近は二次募集になる都立高校はほとんどありません。

ウ．分割募集…募集人員をあらかじめ分割し、他の高校の第一次募集時に約８割の合格者を決め(分割前期)、残りを他の高校の第二次募集時に決める(分割後期)高校もあります。（深沢、府中東高校等）

エ．一部に学力検査を実施せずに、本人の書く志願申告書・面接・作文だけの高校もあります。（チャレンジスクール、エンカレッジスクール）

2 私立高校

私立高校も大きく変わってきています。最近の特徴は、

①　大学受験を目指す「特進」「選抜」コースを新設する高校が目立ち、同じ高校でも、コース

によって推薦等の基準が違います。

② 学校独自の「特待生」制度を導入する高校も増えています。

（例：内申で５科○以上なら３年間授業料免除、□以上なら１年間免除等）

内申点だけではなく、当日の入試得点によって、特待生が認められる場合もあります。

私立学校も変化し続けていますので、常に最新の情報を得るようにしてください。

（１）応募資格および入試について

都内だけでなく、近県の高校も受験できます。多くの高校は、推薦入試と一般入試に分けて実施されています。

① 推薦入試…実施する多くの高校が募集人員の５０％程度をとります。

・推薦入学の試験日は、東京都では、ほとんどの学校が１月中旬です。

・各高校独自で基準を設け、条件にあった生徒を対象に行います。推薦入学の条件には、次のような基準があります。

・第１志望の生徒である。
・学力が各校の定める一定の基準を満たしている。（５教科で２０以上等）
・欠席日数や遅刻回数などが少ない。
・生活態度が良好な生徒である。
・入学後、生活･学習とも努力し、向上することができる生徒である。
・特別な活動･能力が顕著な生徒である。
・全教職員が推薦し、校長が認めた生徒である。

・基準を満たし、入学を希望する生徒がいる場合、全都一斉に１２月１５日から中学校と高等学校で行われる「入試相談」を経て受験することになります。したがって、できるだけ１１月の三者面談で意志決定をすることが望ましいです。合格したら必ず入学することになります。

・試験は、面接、調査書、推薦書、作文等で行われます。学力検査は原則として免除されますが、一部に「適性検査」を実施する場合もあります。スポーツ推薦等では実技試験をすることもあります。

・基準を満たせば、高確率で合格できますが、面接の態度や適性検査の結果等が著しくよくない場合、不合格になる場合もあります。

② 一般入試

・一般入学の試験日は、例年、東京都では２月１０日～１２日に行われていますが、ほとんどの学校が１０日に集中しています。試験日が重ならなければ、何校でも受験できます。

・主に国語、数学、英語の３教科の入試得点と面接、作文等と調査書で行われます。

・各学校独自の出題傾向を調べておきましょう。マークシート等を用いる学校もあります。

・都立高校を第一志望とする生徒が、都立入試よりも先に受験するため、募集人員よりも多くの合格者を出します。

・次のような「優遇制度」を実施している高校では、「優遇制度」による合格者が多いため、優遇制度を使わずに受験する場合（フリー受験）の合格率は低くなります。

【一般入試における優遇制度】※すべての私立高校が実施しているわけではありません。

・第一志望優遇措置

…推薦基準に達しないが、第一志望であるとき、合格すれば必ず入学することを条件として、学力検査の入試得点に一定の加点をする制度です。

・併願優遇(第二志望優遇措置)

…第一志望の都立高校(高校によっては私立高校も可)が不合格になった場合、必ず入学することを条件に、学力検査の入試得点に大幅な加点をする制度です。ただし、各高校独自で設けた基準(主に内申点)を満たすことが必要で、一般的に、推薦入学の基準より厳しくなっています。学校によって優遇の程度が違いますので、学校説明会や個別相談等で確認が必要です。

どちらの場合も一般入学試験と同じ受験をしますが、内申点等の基準があるほか、１教科でも０点の場合は不合格になる等の条件が設定されている場合があります。また、この制度を利用する場合は、推薦と同様「入試相談」を経て受験することになります。よって、推薦同様、校長による推薦が必要となります。また、推薦と同じく１１月の三者面談で意志決定をすることが望ましいです。

≪ 近年の受験で、併願優遇制度を実施した学校の例 ≫

桜美林　関東国際　錦城学園　国本女子　佼成学園　佼成学園女子　国士舘　駒沢学園女子
駒場学園　実践学園　自由ヶ丘学園　松蔭　昭和第一学園　杉並学院　専修大付属　大成
大東学園　立川女子　帝京大学　東京農大一　日本学園　日工大駒場　正則学園　杉並学院
富士見丘　藤村女子　宝仙学園　他　※１２／１５からの入試相談が必要になります。

3 令和２年度都立高校入試の概況

① 入試制度の変化…来年の推薦入試および一般入試で大きな制度変更は予定されていませんが、詳しいことは１０月頃に決定され、要項が発表されます。

・H25 年度…推薦入試で、全校で集団討論が導入され、集団討論･面接･作文等の比重が高くなる。総合学科･専門学科･コース制推薦枠が 50%から 30%になる。

・H26 年度…自校作成問題で出題していた高校を３グループに分けて、グループごとに問題を作成。中高一貫･単位制推薦枠が 30%から 20%に。

・H27 年度…一部高校でマークシート方式による学力検査の実施。

・H30 年度…自校作成問題をグループで作成していた高校が、各校独自作成に変更。

② 推薦入試…全体的には前年度とほぼ変わらず（0.06 ポイント減）引き続き高倍率入試です。応募倍率は、全体で 2.55 倍でした。女子の倍率が高い傾向にあり、昨年度は普通科男子が 2.64 倍、普通科女子が 3.34 倍でした。集団討論や作文･小論文の比重が重いため、それらの対策が重要です。

③ 一般入試門…応募倍率は、全日制で 1.40 倍（前年度 1.40 倍）でした。普通科男子は 1.49 倍、普通科女子は 1.53 倍でした。また、専門学科は 1.09 倍と、５年前と比較して約 0.2 ポイント減となっています。私立授業料無償化に伴い、都立は１ランク上や憧れの人気校へチャレンジする動きが強まっているようです。

4　今年度の入試内容、日程について

①都立高校

新型コロナウィルス感染症対策のために学校の臨時休業が長期化したことを受けて、令和３年度の都立高校入試では、次のように対応が行われます。

１　文化・スポーツ等特別推薦について

「推薦の基準」には、大会の実績や、資格・検定試験などの成績に関わる内容は含めません。また、「実績等を証明する書類」の提出も求めません。

専攻は、検査日当日の実技検査等によって行います。

２　学力検査について

中学１，２年の学習内容に加え、中学３年生の１年間の学習内容のうち、おおむね７か月程度で学習可能な範囲から出題します。

出題範囲の変更による対応のため、**例年からの入試日程の変更は行われません（推薦入試　令和３年１月２６日及び１月２７日、一般入試　令和３年２月２１日）。**詳しくは東京都教育委員会ホームページ、または配布された「令和３年度都立高校入試における出題範囲等について」のリーフレットをご覧ください。

②私立高校

東京都の私立学校の出題範囲等の配慮については、**各学校の判断で対応**されます。よって、私立高校の受験を考えている場合には、**募集要項や学校説明会等で必ず確認をしてください。**